（別紙様式4）

令和7年7月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
日本工学院八王子専門学校	昭和62年3月27日	中村　英詞	〒　192-0983 （住所）　東京都八王子市片倉町1404番地1他 （電話）　042-637-3111
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人片柳学園	昭和31年7月10日	千葉　茂	〒　144-8650 （住所）　東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 （電話）　03-3732-1111

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	芸術専門課程	スポーツ健康学科 スポーツインストラクターコース	平成25(2013)年度	－	平成27(2015)年度

学科の目的	マリンスポーツ、スノースポーツ、アウトドア、チャイルド、レジャーなど各種スポーツの指導ノウハウと中高齢者向け健康運動指導法を身につけたインストラクターを目指します。また学内に設置されたフィットネスクラブ「MFC」において、SNS各種ウェアラブルデバイスなど、最新のICT技術やサービスを用いて運動指導を行なう方法を学習します。時代にマッチしたスポーツ・健康サービスやトレーニング指導できる人材を育成します。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	健康運動実践指導者、日本赤十字社救急法救急員、ビジネス能力検定ジョブパス3級、JATI-ATI、オープンウォーターダイバー、水泳コーチ1、ジュニアスポーツ指導員、幼児体育指導員 中退率：0%

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,705 単位時間	1,305 単位時間	450 単位時間	1,485 単位時間	0 単位時間	690 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)	中退率
80 人の内数	18 人	0 人	0 %	0 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	: 9	人
■就職希望者数 (D)	: 9	人
■就職者数 (E)	: 7	人
■地元就職者数 (F)	: 5	人
■就職率 (E/D)	: 78	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	71	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	78	%
■進学者数	0	人

■その他

（令和　　6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和6年度卒業生）

JR東日本スポーツ㈱、㈱メガロス、㈱セントラルスポーツ、㈱東急スポーツシステム、ホテルニューオータニ、ホリデイスポーツクラブ、アスリエスポーツクラブ、カーブス、コスモスポーツクラブ、リトルジャンボスポーツクラブ

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　有

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：特定非営利活動法人　私立専門学校等評価研究機構　　受審年月：平成26年3月　　評価結果を掲載したホームページURL

当該学科のホームページURL

https://www.neec.ac.jp/department/sports/health/instructor/

企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）

（A：単位時間による算定）

総授業時数	3,930 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	1,350 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（B：単位数による算定）

総授業時数	単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位
うち必修授業時数	単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	0 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	2 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	1 人
計		4 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	3 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

スポーツを通じて広く社会に貢献できる人材を育成するために、企業等と連携体制を確保して適宜ヒアリングを行い、指導者になるためのスキルの向上や、健康にかかわる栄養やメンタルに関することなどについて内容を検討し、カリキュラムに反映する。そのため、校内の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等をスポーツ業界より選定している。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。
本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育･学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
池田　つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会　理事	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	①
髙谷　篤志	東急スポーツシステム株式会社　人事部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	③
角田　好則	住友不動産エスフォルタ株式会社　部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	③
中村　英詞	日本工学院八王子専門学校　校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	－
荒井　哲子	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部　部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	－
三樹　春幸	日本工学院八王子専門学校　カレッジ長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	－
伊藤　茂彦	日本工学院八王子専門学校　科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日（1年）	－

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）

年2回　（3月・8月）

（開催日時（実績））
第1 回　　令和6年09月03日　13: 00～15: 00
第 2回　　令和7年03月06日　13:00～14:30

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
MFCを 教場とした実技・ 実習授業により、インストラクションの実践を強化することで、コミュニケーション力や人間力向上に努めている。現場で指導する際に無資格者より有資格者の方がお客様からの評価が高いという意見から、在学中に取得できるよう健康運動実践指導者などの合格率を上げるため、資格対策授業・ 資格対策補講などを行う。
専門的な知識だけではなく、設営や運営についての知識も必要との意見から、「 パーソナルウエルネス演習1」などの連携授業において、企画・ 運営や経営面も取り入れたシミュレーション授業にて、ウェアラブル端末を利用したトレーニング指導から、MFCの仮想運営等を実施。一般社会人スキル向上として職場体験などを活用していくなどの案も出た。また人間力やコミュニケーション能力など社会人基礎力をはじめPCスキルが不足しているとの指摘もあり、積極的に学内外で主体的に行動することのできる学生を育成するための指導を徹底することで、企業が求める人材ぞうに近づけることができるとの意見があったことから、学内に留まらず、学生が企画運営するイベント等の開催機会を増やす案が出た。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
スポーツのインストラクター・コーチングが実践できるよう、テクノジムジャパン㈱が実施する「パーソナルウェルネス演習1」より実技・実演を軸にする。ストレッチング、補強運動、フィットネストレーニング、筋力トレーニング（マシントレーニング）、整理体操などの基本テクニックについて学びながら、自らのトレーニングに対する取組や経験が指導者にとっては重要なので重点的に実施し、評価に換算する。トレーニングのみならず、スポーツジムのコンサルティングも行っている連携企業により、トレーニングルームの運営方法やリスクマネジメントなども学習する。
また、安全に効果的な指導ができ、職業人としてあるまじき言葉使いや立ち振る舞い等の人間教育も含めて授業態度等も評価に含める。企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科　目　概　要	連　携　企　業　等
グループエクササイズ1・2	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	複数人が一緒にフィットネスエクササイズを行うグループエクササイズ。リズムに合わせて行う、有酸素運動、筋力ト	株式会社Dr.トレーニング

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　スポーツ×ICT・ICT①　　連携企業等：株式会社ライフパフォーマンス代表取締役 大塚 慶輔
期間：　令和6年9月20日 10:00-12:00　　対象：スポーツ教員
内容　コンディショニングの方法

研修名：　スポーツ×ICT・ICT②　　連携企業等：株式会社ライフパフォーマンス代表取締役 大塚 慶輔
期間：　令和7年3月3日 10:00-12:00　　対象：スポーツ教員
内容　スポーツ業界で求められる人材

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：　救急体制と対応について　　連携企業等：国士館大学防災・救急救助総合研究所 曽根悦子
期間：　令和5年9月4日 15：30－17:30　　対象：スポーツ教員
内容　①安全な学校生活の環境整備や体制②救急事例と対応

研修名：　スポーツ系学校における救急体制と対応について Ⅱ　　連携企業等：国士館大学防災・救急救助総合研究所 曽根悦子
期間：　令和6年3月5日15:30－17:00　　対象：スポーツ教員
内容　①救急事例と対応②救急対応と法的問題 ③職業教育を実施する教員として備えるべき救急対応に関しての能力

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　プロスポーツチームのビジネス最前線①　　連携企業等：株式会社アルファーズ 代表取締役社長 上原和人
期間：　令和7年9月17日 15：00-17:00　　対象：スポーツ教員
内容　プロバスケットB1チームの運営と取り組み

研修名：　プロスポーツチームのビジネス最前線②　　連携企業等：株式会社アルファーズ 代表取締役社長 上原 和人
期間：　令和8年3月を予定　　対象：スポーツ教員
内容　プロバスケットB1チームの運営と取り組み

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：　学生の自立を促す指導①　　連携企業等：国士館大学体育学部 教授 体育学部部長 古田 仁志
期間：　令和7年9月19日 15：00-17:00　　対象：スポーツ教員
内容　主体性を促す指導・コーチング

研修名：　学生の自立を促す指導②　　連携企業等：国士館大学体育学部 教授 体育学部部長 古田 仁志
期間：　令和8年3月を予定　　対象：スポーツ教員

内容　　主体性を促す指導・ コーチング

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。
学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	（1）教育理念・目標
（2）学校運営	（2）学校運営
（3）教育活動	（3）教育活動
（4）学修成果	（4）学修成果
（5）学生支援	（5）学生支援
（6）教育環境	（6）教育環境
（7）学生の受入れ募集	（7）学生の受入れ募集
（8）財務	（8）財務
（9）法令等の遵守	（9）法令等の遵守
（10）社会貢献・地域貢献	（10）社会貢献・地域貢献
（11）国際交流	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議における、本校の自己点検に対する評価委員からの主な意見と、それに対する本校の対応（活用）方法は以下のとおりです。

1. 留学生支援・国際交流の充実
評価委員からは、留学生の増加に伴い、日本語学習の困難や文化的背景への配慮が必要であるとの指摘があり、非漢字圏の学生への対応や語学支援の強化が求められています。また、英語圏以外の国々からの学生が増えていることを踏まえ、国際交流や交換留学制度の整備、Zoom等を活用した海外との交流機会の創出が望ましいとの意見がありました。

2. 教育内容・学習環境の向上
委員からは、学生の作品の質が年々向上していることが評価される一方で、医療分野におけるAI活用など、より実践的な教育内容の充実が求められています。また、番組制作やカメラ・照明などの職人的分野では、現場での学びが重要であり、専門学校としての強みを活かすべきとの指摘がありました。加えて、教職員のデジタル知識の向上が必要であるとの意見も示され、ICT活用の推進が課題とされています。

3. 地域連携・社会とのつながり
地域との連携については、ボランティアやアルバイトなど地域密着型の活動を経験している学生が多く、これを学校の特色として活かすべきとの指摘がありました。また、地域のスポーツ団体とのマッチング機会の創出や、予算面での課題を踏まえた地域活動の工夫が求められています。

4. 多様な学習者・進路支援への対応
委員からは、総合型入試を活用する学生の増加や、資格取得を通じた進学支援の必要性が指摘されました。さらに、社会人が専門学校で学び直す際には、資格取得が可能な環境整備や、異なる年齢層が共に学ぶことによる相互刺激の価値を重視すべきとの意見があり、多様な学習者に対応する柔軟な教育体制の構築が求められています。

5. 学生支援・メンタルヘルスの充実
学生が安心して学べる環境づくりに向けて、メンタルヘルス支援の充実が必要であるとの指摘がありました。言葉の掛け方によって学生の反応が変わることから、教職員の対応力向上も重要視されています。また、健康面での支援体制の強化や、個々の学生に応じた支援のあり方についても、今後の検討課題として挙げられています。

以上の内容を踏まえ、学校関係者評価委員会において討議された事項に基づき、次の5項目について検討を行い、今後の取組に活用してまいります。

・日本語教育の強化や海外との交流機会の創出、国際連携の推進など、留学生がより学びやすい環境づくりについて今後の整備を検討します。
・地域企業や団体との協働、地域イベントへの参加促進などを通じて、学生の実践力育成と学校の地域貢献を目指す取り組みを模索しています。
・教職員のICTスキル向上や授業のデジタル化、学生成果の外部発信など、教育の質を高めるための環境整備を段階的に実施していきます。
・社会人や非全日制学生への柔軟な学習支援、資格取得支援制度の整備など、多様な学びのニーズに応える体制づくりを今後の課題としています。
・メンタルヘルス支援や多言語対応、個別支援の充実など、学生が安心して学べる環境の構築に向けた取り組みを引き続き検討していきます。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
森　健介	順天堂大学　非常勤講師 （元白梅学園高等学校副校長）	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	学校関連
金子　英明	日本工学院八王子専門学校　校友会会長 （ｾﾝﾄﾗﾙｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ株式会社）	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	卒業生／企業等委員
細谷　幸男	八王子商工会議所　専務理事	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	地域関連
山本　哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター　総務部長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	企業等委員
今泉　裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会　事務局長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	企業等委員
才丸　大介	株式会社カオルデザイン 取締役　マーケティング戦略室　室長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	企業等委員
矢野　俊宏	株式会社田中建設　取締役　営業本部長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	企業等委員
池田　つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会　理事	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	企業等委員

石川　仁嗣	医療法人社団　健心会　みなみ野循環器病院　事務長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日（1年）	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））
URL:　URL:https://www.neec.ac.jp/public/
公表時期:　令和7年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。
また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園　財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
（2）各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
（3）教職員	教員・教員組織
（4）キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
（5）様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
（6）学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
（7）学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
（8）学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
（9）学校評価	学校評価、令和6年度の項目別の自己評価表
（10）国際連携の状況	
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））
URL:　URL:https://www.neec.ac.jp/public/
公表時期:　令和7年9月30日

授業科目等の概要

	（芸術専門課程 スポーツ健康学科　スポーツインストラクターコース）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1		○		人材研修プログラム	４月のオリエンテーション期間中などを利用し、スポーツクラブなどのコースに特化した特別講師を招いて研修を行います。必※	1	15	1	○				○	○		
2	○			ビジネススキル１	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	1	30	2	○			○		○		
3	○			ＰＣ活用１	マイクロソフト認定Ｗｏｒｄ資格取得に向けて、必要な基礎知識を学びます。	1	30	2		○		○			○	
4	○			コーチング概論１	コーチングについてアクティブラーニング形式を中心に学びます。	1	30	2		○		○		○		
5	○			ストレングス＆コンディショニング理論１	ストレングス&コンディショニングプログラムを作成するための基礎知識を学びます（フィットネスエクササイズと安全も含む）。	1	30	2	○			○		○		
6	○			解剖学概論	骨格、筋肉、心臓、血管、呼吸器、神経などの構造と機能について学びます。	1	30	2	○			○			○	
7	○			健康運動実践指導者対策１	健康運動実践指導者について学びます。	1	30	2	○			○		○		
8	○			スイミング	水泳の特性について理解し、レベル別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	1	30	1			○	○			○	
9	○			ダンスフィットネス１	スポーツクラブや小学校でも必須となっているダンスのスタイルを取り入れたプログラムを筆頭に、スタジオプログラムの知識・技術について幅広く学びます。	1	30	1			○	○			○	
10	○			予防とコンディショニング	コンディションの把握・管理・方法と実際について学びます。また競技特性に応じたコンディショニングや、環境整備についても学びます。	1	30	2	○			○			○	
11	○			陸上	陸上、ジョギング･ウォーキングの特性について理解し、年齢別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	1	30	1			○	○			○	
12		○		アウトドア１	キャンパス内外などを利用して、屋外でのフィットネス（健康運動）について学びます。選※	1	30	1			○	○			○	
13			○	球技	各球技種目の特性について理解し、年齢別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	1	30	1			○	○			○	
14			○	フィンワーク実習	プールにて３点セット（マスク、フィン、スノーケル）を使用し、フィンワーク（泳ぎ方、素潜り）技術を養います。	1	30	1			○	○			○	
15	○			ストレングス＆コンディショニング実技１	準備運動、ストレッチング、補強運動、フィッネストレーニング、筋力トレーニング（マシントレーニング）、整理体操などの基本テクニックについて学びます。	1	30	1			○	○		○		
16	○			レクリエーションスポーツ	スポーツ指導の現場でのレクリエーションの考え方と、さまざまな場面での運動方法を学びます。	1	30	1			○	○		○		

17		○		キャンプインストラクター実習Ａ	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。選※	1	30	1			○	○			○	
18		○		スポーツ自由研究Ａ	体育祭の実行委員経験をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。選※	1	30	2		○		○		○		
19		○		マリン実習Ａ	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。選※	1	30	1			○	○			○	
20		○		初級ダイビング実習	スクーバダイビング「オープンウォーター」資格取得のために必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。選※	1	30	1			○	○			○	
21		○		短期海外研修Ａ	海外において人体解剖、テーピング、コンディショニングなどの実習を体験し、最新のトレーナー教育についての理解を深めます。選※	1	60	2			○	○		○		
22	○			ビジネススキル２	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	1	30	2	○			○		○		
23	○			ＰＣ活用２	マイクロソフト認定Ｅｘｃｅｌ資格取得に向けて、必要な知識を学びます。	1	30	2		○		○			○	
24	○			コミュニケーション	スポーツ現場で必要なコミュニケーションスキルを学びます。（営業力、選手のケア、お客様への対応、さまざまシーンを想定しながらコミュニケーションスキルを磨いていきます。）	1	30	2	○			○		○		
25	○			コーチング概論２	グッドコーチに求められる医・科学知識や現場・環境に応じたコーチングを学びます。	1	30	2		○		○		○		
26	○			コーチ学	スポーツ指導者とは、指導者の心構え・視点、競技者育成プログラムの理念、指導計画の立て方、スポーツ活動と安全管理、スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任などについて学びます。	1	30	2	○			○		○		
27	○			スポーツ医学概論	スポーツと健康、スポーツ活動中に多いケガや病気、アスリートの健康管理と内科的障害と対策、呼吸循環器系の働きとエネルギー供給、アンチドーピング、スポーツによる精神障害などについて学びます。	1	15	1	○			○			○	
28	○			栄養学	スポーツと栄養、アスリートの栄養摂取と食生活について学びます。	1	15	1	○			○			○	
29	○			健康運動実践指導者対策２	健康運動実践指導者資格取得のための知識・技術を学びます。	1	30	2	○			○		○		
30			○	ＪＡＴＩ対策１	ＪＡＴＩ認定トレーニング指導者取得のための知識・技術を学びます。	1	30	2	○			○		○		
31			○	トレーニング科学	競技者育成と評価、競技者育成システムにおける指導計画、競技力向上のためのチームマネジメント、競技スポーツとIT、体力とは、トレーニングの進め方、トレーニングの種類について学びます。	1	30	2	○			○		○		
32	○			スポーツ心理学	スポーツと心、スポーツにおける動機づけ、コーチングの心理、メンタルマネジメント、指導者のメンタルマネジメント、スポーツ相談の意義、スポーツ相談の実際、子どもたちを取り巻く問題点と運動・スポーツの必要性などについて学びます。	1	30	2	○			○			○	
33	○			健康教育学	発育発達期の身体的特徴、心理的特徴、発育発達期に多いケガや病気、発育発達期のプログラムなどについて学びます。	1	15	1	○			○		○		

34	○			ストレングス＆コンディショニング理論２	目的に応じたストレングス＆コンディショニングプログラムの作成能力やカウンセリング能力を養います。	1	30	2	○			○			○	
35	○			運動生理学	スポーツ活動と体力、運動体としての身体の構造と機能について学びます。	1	30	2	○			○		○		
36	○			フィットネスビジネス１	スポーツ・健康業界の動向や基礎知識について学びます。	1	30	2		○		○			○	
37	○			ダンスフィットネス２	スポーツクラブや小学校でも必須となっているダンスのスタイルを取り入れたプログラムを筆頭に、スタジオプログラムの知識・技術について幅広く学びます。	1	30	1			○	○			○	
38	○			フィットネスクラブ演習１	デジタルという手段を用いて質の高い運動指導について学べます	1	30	2	○			○		○		
39	○			グループエクササイズ１	複数人が一緒にフィットネスエクササイズを行うグループエクササイズ。リズムに合わせて行う有酸素運動、筋力トレーニングのプログラムについて学びます。	1	30	1			○	○			○	○
40		○		アウトドア２	キャンパス内外などを利用して、屋外でのフィットネス（健康運動）について学びます。選※	1	30	1			○	○			○	
41			○	体操	体操（マット運動、跳び箱など）の基礎技術と指導法を学びます。	1	30	1			○	○			○	
42	○			ストレングス＆コンディショニング実技２	マシンやフリーウエイトを使用した筋力トレーニング、サーキットトレーニング、アジリティトレーニングなどの基本テクニックについて学びます。	1	30	1			○	○		○		
43		○		スポーツトレーニング実習Ａ	メディカルフィットネスセンターなどを週1回利用して、トレーニング実践方法について学びます。選※	1	30	1			○	○		○		
44		○		スポーツトレーニング実習Ｂ	メディカルフィットネスセンターなどを週1回以上利用して、トレーニング実践方法について学びます。選※	1	60	2			○	○		○		
45		○		スポーツトレーニング実習Ｃ	メディカルフィットネスセンターなどを週2回以上利用して、トレーニング実践方法について学びます。選※	1	120	4			○	○		○		
46		○		ＭＦＴ実技	メディカルフィットネストレーナーとして認定を受けるための実技スキルを身につけます。選※	1	30	1			○	○			○	
47		○		スキー実習Ａ	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。選※	1	30	1			○	○		○		
48		○		スノーボード実習Ａ	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。選※	1	30	1			○	○		○		
49		○		スポーツ自由研究Ｂ	紅華祭実習参加をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。選※	1	30	2		○		○		○		
50		○		中級ダイビング実習	スクーバダイビング「アドバンスダイバー」資格取得のために必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。選※	1	30	1			○	○			○	
51		○		ＭＦＣスタッフ実習１	MFC(メディカルフィットネスセンター)スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいきます。選※	1	120	4			○	○		○		
52		○		社会体育実習Ａ	学外などにおいて現場の実践的な経験を積み、指導者としての資質を高めます。選※	1	60	2			○	○		○		
53		○		日本赤十字社救急法Ａ	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。選※	1	30	2	○			○			○	

54		○		キャリアアップセミナーA	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	1	15	1	○			○			○	
55		○		キャリアアップセミナーB	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	1	30	2	○			○			○	
56		○		キャリアアップセミナーC	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	1	45	3	○			○			○	
57		○		キャリアアップセミナーD	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	1	60	4	○			○			○	
58		○		業界理解研修１	外部などの研修に参加することにより、業界の動向や基礎知識の理解を深めます。選※	1	15	1	○			○		○		
59	○			ビジネススキル３	社会人になるために必要なコミュニケーションスキルを身につけます。	2	30	2	○			○		○		
60	○			ＰＣ活用３	PowerPointを活用してプレゼンテーションの資料作成について学びます。	2	30	2		○		○			○	
61			○	バイオメカニクス	トレーニング理論とその方法、トレーニング計画とその実際、体力テストとその活用、スキルの獲得とその獲得過程、スポーツバイオメカニクスの基礎を学びます。	2	30	2	○			○		○		
62	○			健康運動実践指導者対策３	健康運動実践指導者資格取得のための知識・技術を学びます。	2	30	2	○			○		○		
63			○	ＪＡＴＩ対策２	ＪＡＴＩ認定トレーニング指導者取得のための知識・技術を学びます。	2	30	2	○			○		○		
64	○			体力測定法	体力測定の方法、測定結果の処理、体力評価とスポーツプログラムについて学びます。	2	15	1	○			○			○	
65	○			フィットネスビジネス２	スポーツ・健康業界の運営方法等について学びます。	2	30	2	○			○			○	
66			○	ストレングス＆コンディショニング理論３	ストレングス＆コンディショニング理論１・２で学んだ知識を活用しながら、パーソナルトレーナーとしての知識と総合力を養います。	2	30	2	○			○		○		
67		○		アウトドア３	キャンパス内外などを利用して、屋外でのフィットネス（健康運動）について学びます。選※	2	30	1			○	○			○	
68			○	ダンスフィットネス３	スポーツクラブや小学校でも必須となっているダンスのスタイルを取り入れたプログラムを筆頭に、スタジオプログラムの知識・技術について幅広く学びます。	2	30	1			○	○			○	
69			○	トレーニング実技１	健康美やスタイル形成など、各自の目的に応じたトレーニングを実践で学びます。	2	30	1			○	○			○	
70	○			フィットネスクラブ演習２	デジタルという手段を用いて質の高い運動指導について学べます	2	30	2		○		○			○	
71	○			グループエクササイズ２	複数人が一緒にフィットネスエクササイズを行うグループエクササイズ。リズムに合わせて行う有酸素運動、筋力トレーニングのプログラムについて学びます。	2	30	1			○	○			○	○
72	○			フィットネストレーニング１	幼児体育指導法に基づき、キッズスポーツについての知識、技術を学びます。また中高年を対象として、個人の特性に応じた的確な運動指導が行える能力も学びます。	2	60	2			○	○		○		
73	○			スタジオプログラム１	スポーツクラブでは主流のスタジオプログラムではエアロビックダンスからパワーヨガ、マットピラティスなどその種類は多種多様です。スタジオプログラムの主要な運動についての知識、技術について基礎を学びます。	2	30	1			○	○			○	

74		○		キャンプインストラクター実習Ｂ	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。選※	2	30	1			○	○			○	
75		○		スノーケリング実習	スノーケリングインストラクター資格取得のために必要な知識・技術について学びます。選※	2	30	1			○	○			○	
76		○		スポーツ自由研究Ｃ	体育祭の実行委員経験をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。選※	2	30	2		○		○		○		
77		○		マリン実習Ｂ	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。選※	2	30	1			○	○			○	
78		○		上級ダイビング実習	スクーバダイビング「ダイブマスター」資格取得のために必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。選※	2	30	1			○	○			○	
79		○		短期海外研修Ｂ	海外において人体解剖、テーピング、コンディショニングなどの実習を体験し、最新のトレーナー教育についての理解を深めます。選※	2	60	2			○	○		○		
80	○			ビジネススキル４	社会人になるために必要なコミュニケーションスキルを身につけます。	2	30	2	○			○		○		
81	○			健康運動実践指導者対策４	健康運動実践指導者資格取得のための知識・技術を学びます。	2	30	2	○			○		○		
82			○	ＪＡＴＩ対策３	ＪＡＴＩ認定トレーニング指導者取得のための知識・技術を学びます。	2	30	2	○			○		○		
83			○	潜水士	ダイビングを職業として考えるのに必要な国家資格である、潜水士取得のための知識を学びます。	2	30	2	○			○			○	
84	○			フィットネストレーニング２	幼児体育指導法に基づき、キッズスポーツについての知識、技術を学びます。また中高年を対象として、個人の特性に応じた的確な運動指導が行える能力も学びます。	2	60	2			○	○		○		
85		○		アウトドア４	キャンパス内外などを利用して、屋外でのフィットネス（健康運動）について学びます。選※	2	30	1			○	○			○	
86			○	ダンスフィットネス４	スポーツクラブや小学校でも必須となっているダンスのスタイルを取り入れたプログラムを筆頭に、スタジオプログラムの知識・技術について幅広く学びます。	2	30	1			○	○			○	
87			○	トレーニング実技２	健康美やスタイル形成など、各自の目的に応じたトレーニングを実践で学びます。	2	30	1			○	○			○	
88	○			スタジオプログラム２	スポーツクラブでは主流のスタジオプログラムではエアロビックダンスからパワーヨガ、マットピラティスなどその種類は多種多様です。スタジオプログラムの主要な運動についての知識、技術について基礎を学びます。	2	30	1			○	○			○	
89	○			グループエクササイズ３	複数人が一緒にフィットネスエクササイズを行うグループエクササイズ。リズムに合わせて行う有酸素運動、筋力トレーニングのプログラムについて学びます。	2	30	1			○	○			○	
90		○		資格対策１	健康運動実践指導者・JATI・ビジネス検定対策講座・模試等を実施します。選※	2	30	2		○		○		○		
91		○		資格対策２	健康運動実践指導者・JATI・ビジネス検定対策講座・模試等を実施します。選※	2	30	2		○		○		○		
92		○		資格対策３	健康運動実践指導者・JATI・ビジネス検定対策講座・模試等を実施します。選※	2	30	2		○		○		○		

93		○		資格対策４	健康運動実践指導者・JATI・ビジネス検定対策講座・模試等を実施します。選※	2	30	2		○		○		○			
94		○		スポーツトレーニング実習Ｄ	メディカルフィットネスセンターなどを週1回利用して、トレーニング実践方法について学びます。選※	2	30	1			○	○		○			
95		○		スポーツトレーニング実習Ｅ	メディカルフィットネスセンターなどを週1回以上利用して、トレーニング実践方法について学びます。選※	2	60	2			○	○		○			
96		○		スポーツトレーニング実習Ｆ	メディカルフィットネスセンターなどを週2回以上利用して、トレーニング実践方法について学びます。選※	2	120	4			○	○		○			
97		○		スキー実習Ｂ	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。選※	2	30	1			○	○			○		
98		○		スノーボード実習Ｂ	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。選※	2	30	1			○	○			○		
99		○		スポーツ自由研究Ｄ	紅華祭実習参加をはじめ、スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。選※	2	30	2		○		○		○			
100		○		健康管理とスポーツ医学	感染症や特殊環境を含む、スポーツで起こりうる内科疾患を学び、年齢・性別によるその特徴と内科医的メディカルチェック・ドーピングについて学びます。必※	2	30	2	○			○			○		
101		○		ＭＦＣスタッフ実習２	MFC(メディカルフィットネスセンター)スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいきます。選※	2	120	4			○	○		○			
102		○		インターンシップＡ	スポーツクラブなどでインターンシップを経験します。選※	2	30	1			○	○		○			
103		○		インターンシップＢ	スポーツクラブなどでインターンシップを経験します。選※	2	45	1			○	○		○			
104		○		社会体育実習Ｂ	学外などにおいて現場の実践的な経験を積み、指導者としての資質を高めます。選※	2	60	2			○	○		○			
105		○		日本赤十字社救急法Ｂ	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。選※	2	30	2	○			○			○		
106		○		キャリアアップセミナーＥ	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	2	15	1	○			○			○		
107		○		キャリアアップセミナーＦ	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	2	30	2	○			○			○		
108		○		キャリアアップセミナーＧ	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	2	45	3	○			○			○		
109		○		キャリアアップセミナーＨ	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	2	60	4	○			○			○		
110		○		業界理解研修２	外部などの研修に参加することにより、業界の動向や基礎知識の理解を深めます。選※	2	15	1	○			○		○			
111	○			成果発表	在学中に学んだ事を基に成果発表のための企画・準備・運営を実施します。	2	60	4	○			○		○			

合計	111　科目	3930時間　単位（単位時間） 189単位

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	卒業時に必修科目1395時間(77単位)および選択科目310時間(11単位)以上取得し、合計1705時間(88単位)以上取得すること。	１学年の学期区分	２ 期
履修方法：	1年次は必須840時間、選択科目15時間以上履修すること。 2年次は必須555時間、選択科目295時間以上履修すること。	１学期の授業期間	15 週

選択科目の履修方法
1年次は必修2時間、選択科目2時間以上履修すること
2年次は必修時間、選択科目時間以上履修すること
必選別の後の※印があるものは授業時間割外で実施